

‘天草’の果実肥大特性と果実品質

新崎正雄・比嘉 淳¹⁾・鳥袋清香
 (沖縄県農業試験場名護支場・¹⁾ 沖縄県農業試験場宮古支場)

Masao ARASAKI, Atsushi HIGA and Sayaka SHIMABUKURO :
 Survey on the Characteristics of the Fruit Thickening and the Quality of Citrus cv. Amakusa

ウンシュウミカンの価格低迷により、沖縄県では中晩柑の栽培が伸びつつある。そこで、沖縄県に適している中晩性カンキツ‘天草’の高品質安定生産の基礎資料とするために、果実肥大特性と果実品質を調査した。

1. 材料および方法

沖縄県農業試験場名護支場内の露地高畝栽培・高接ぎ2年生‘天草’（台木カラタチ、中間台早生ウンシュウ）の初着果樹を調査に供した。3樹を供試し2000年6月中旬から果実肥大状況を、11月から果実品質を収穫時まで定期的に調査した。また2001年1月に適量着果している（葉果比；60枚程度）2樹を直果と有葉果別および結果母枝の形態別に果実品質を調査した。さらに階級別に果実品質を調査した。

1. 結果および考察

1) 摘果時は果実の横径と縦径に差はなかったが、生育が進むに連れて横径の肥大量が大きくなった。日肥大量は特に7～8月の肥大が大きくなり、その後は漸次小さくなっていった（第1図）。また階級別に果実の肥大状況を調査した結果、8月上旬の最終摘果時に横径が約60mmの果実は収穫時にはL果以上の大玉になった（図

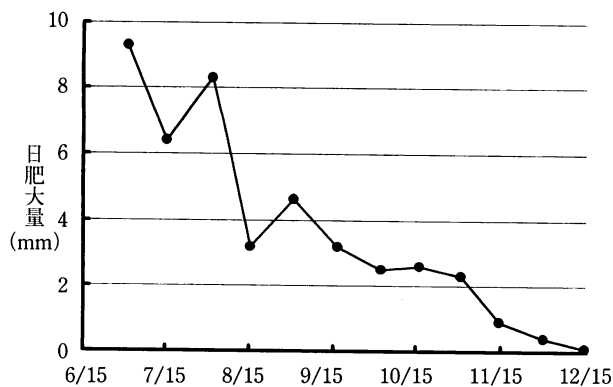
省略）。

2) クエン酸は11月1日時点で1.0%以下になり、その後も減酸が良好で収穫時には0.7%であった。糖度は12月1日時点では10度程度であったが、その後収穫時まで緩やかに上昇し12度程度になった（第2図）。

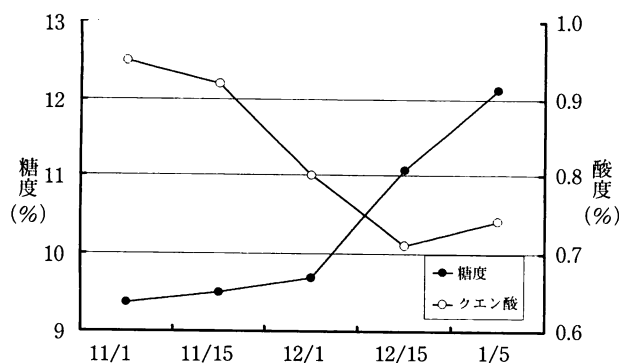
3) 直花、有葉花は1樹内に3対7の割合であり、着果率は同程度で、収量も同様の割合であった。また、果梗枝径、糖度およびクエン酸とも直果、有葉果および有葉果の葉数による差はなかった（第1表）。また、結果枝の種類の違いによる糖度、クエン酸、着色の差はなかった（第2表）。

4) 階級別の果実品質では各サイズとも減酸は良好であった。また、L果以上の200gをこえる果実でも糖度は12度程度であった（第3表）。

以上の結果、‘天草’は直果、有葉果別による果実品質に差はなく、また、結果枝の種類別の果実品質の差もみられなかった。さらにL、2L果の大玉でも糖度が約12度と高かった。今回の調査で‘天草’は露地栽培でも糖度が12度と高く、減酸も良好であることから沖縄県での栽培に適していると考えられる。



第1図 ‘天草’の日肥大量の推移



第2図 ‘天草’の果実品質の推移

第1表 ‘天草’の結果枝の形態別収量および果実品質

結果枝の形態	1樹収量 (kg)	左の割合 (%)	果実重 (g)	果梗枝径 (mm)	糖度 (%)	クエン酸 (%)
直果	6.8	28	210	3.9	12.7	0.75
1～2枚	5.8	24	211	3.6	12.6	0.76
3～4枚	5.9	25	215	3.7	12.9	0.77
5枚以上	5.5	23	203	3.5	12.8	0.74
合計	24.0	100				

注) 2001年1月10日調査

第2表 結果枝の種類別の果実品質

結果枝の種類	1果重 (g)	糖度 (%)	クエン酸 (%)	カラーチャート
春枝	180	13.4	0.89	8.0
夏枝	187	13.6	0.92	8.0

第3表 ‘天草’の階級別果実品質

階級	1果重 (g)	果形指数	糖度 (%)	クエン酸 (%)	カラーチャート
S (～67)	140	104	13.96	0.90	8.5
M (68～73)	178	107	12.75	0.79	8.4
L (74～80)	223	108	12.38	0.77	7.9
2L (81～88)	266	114	11.80	0.72	8.1

注) 2001年1月10日調査